



^ 13
3395
2





雲の舟雨夜の舟ニ

三



Vertical text on the left edge of the book cover, possibly a title or publisher's name.

13
3395
卷 2



雨 四

源氏



雲 妙間 雨 夜月 卷之二

東 都

曲 亭 馬 琴 編

第 四 套

東 路 の 雪 の 山

伊 原 二 郎 一 郎 武 章 の 武 養 が 奴 隸 下 女 の 御 導 と し て 夜 を 小 繼

相 列 底 倉 へ 到 着 し 兄 ち 郎 五 武 養 と 對 面 と し て 武 養 が け ち せ

此 の 雁 鴉 飼 の る よ し と 此 ぞ ち ろ り ち ろ り 奴 隸 せ れ 武 も ち 文 も ち

身 身 二 郎 一 郎 武 章 の 木 賀 郎 の 蔭 を 蒙 り ち 入 る 事 小 世 成 事 也

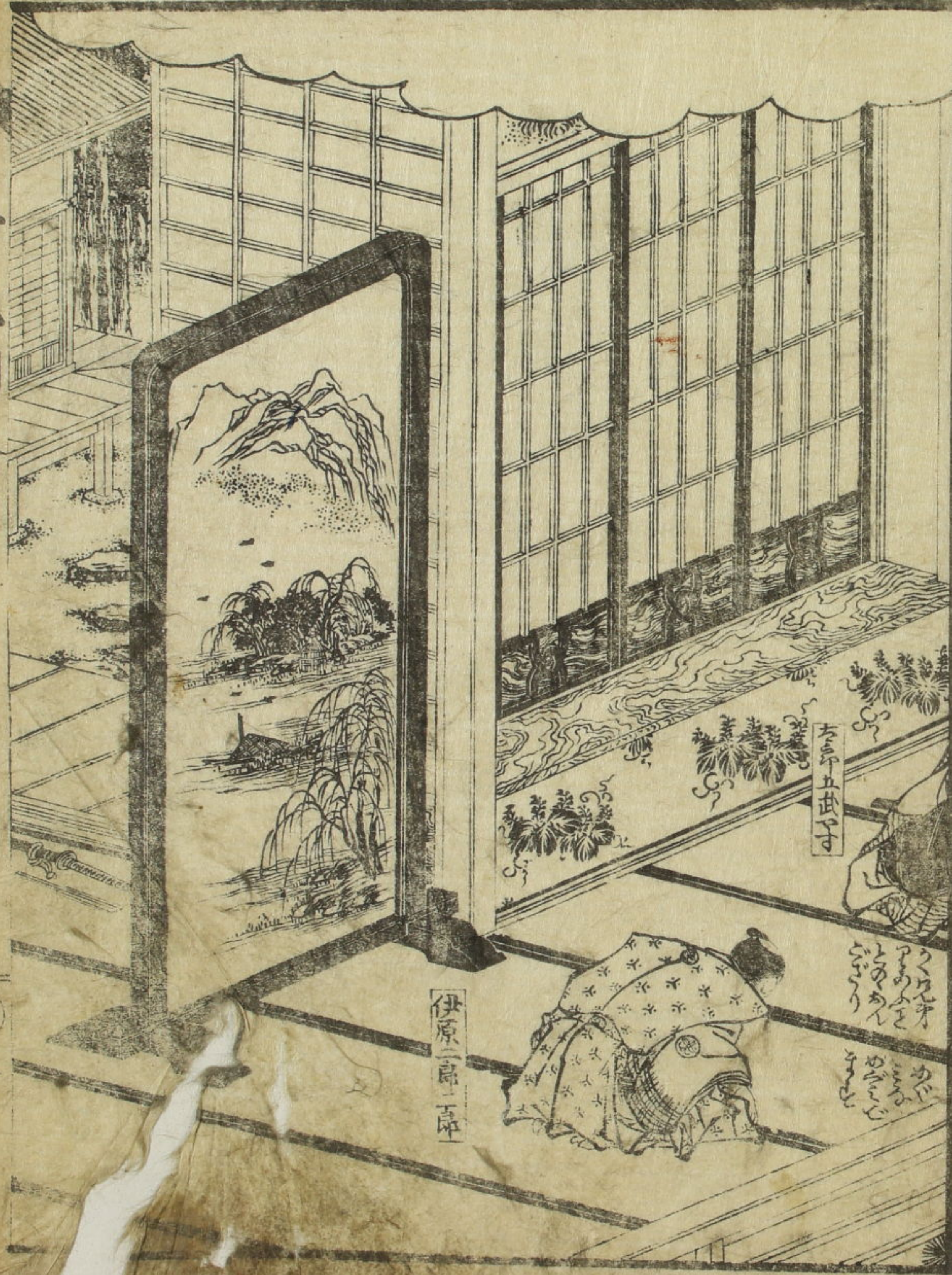
身 二 郎 一 郎 武 章 の 瀨 田 の 片 ぼ ち ろ り 住 せ ば 年 末 の 艱 難 事 也

身 二 郎 一 郎 武 章 の 妻 の 五 年 以 前 身 二 郎 一 郎 武 章 の 妻

小 動 の 五 十 二 郎 一 郎 武 章 の 妻 二 郎 一 郎 武 章 の 妻

い づ 月 主 君 在 陣 の 久 三 撰 津 園 ち ろ り 一 人 の 婦 を 俱 へ 武 養 郎 之 妻

東 都 色 月 卷 二



伊原三郎

木賀三郎

あんなの
うしろの
うしろの
うしろの
うしろの



大弟の
居るも
森の
許六

木賀三郎

あんなの
うしろの
うしろの
うしろの
うしろの

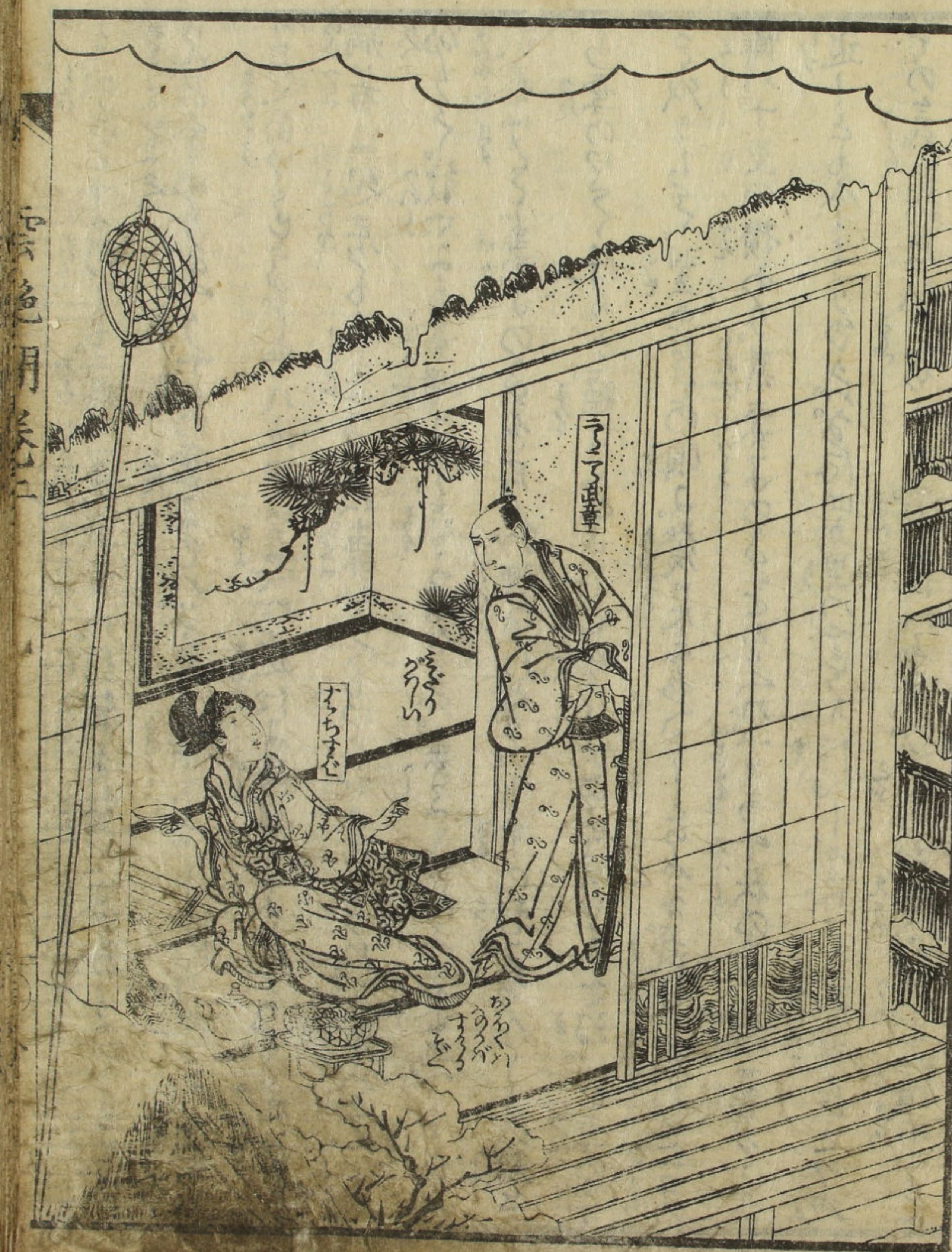
あんなの
うしろの
うしろの
うしろの
うしろの

御食應もせざれば山田の雁息ありとも。夥たりゆき飽せよとさひく。
 ある日の朝さうらゐ。彼雪の山を羨まじく駕ま。丁介は犬を牽き麓の
 へそめぬ。武章の日のあつて見がぬるをもちらふれどあまうり小徒
 然るのよ。さうらぬ。嫂とさう向ひつ居らんも影護りれば猛に相根権現
 詣んと忙しくまじやう。彼神社は糸と着近はる子どもちらう
 は恙あり。妻の病着をあらう果さうあつて。さう丹誠を凝し遂
 小舊の山路を歸て未る。常まじ定めぬ。山のさすまひ小今
 隆寒のおるればさう同雲布満。雪亦非くと降か。巖のあやう
 は銀の虎を造らう。杓の妙は時さうぬれ。玉塵路経を埋めて
 野も山もまは連の内うとえやう。風又烈りれば吹とられいとまを
 傾け袖をうたありつ。辛く底倉よ走と着ぬ。さう行よ運せふと

水性のちるまよさう。假初の武章をえんじより。奥暮小るひを焦し同胞
 まのありあがうが夫と彼人とかくまむ。芬勝のすろるまが身過せありく
 ちるびくつ男と眠もる。千里の名馬が齒擔桶を着られらる異
 あくぞ。彼人をうらまをも曲めぬ。密すう相詰りむをアツん
 がられよ。さうさうあつめとさひく。信とさう歎ねせども。武章の礼後を
 くさう。打とひる。氣をえんせね。ひうけんやうもさう。いさうさひ悲ひ。この
 日夫の死うもあつね。たれありとさひて。さう牙の粧ひをうらま。この
 さうさうさう。あは化粧果む。さう小武章の相根権現。さう
 和意さうさひて引とさう。さうまはくありしが結ひ。に髪さう。さう
 たらびうらうもさう。ゆはら。遺藏くとさう。さう髪と結と。さう
 ぬるはさう。さう。焼く。枝炭を鞍をうらう。一壺の酒を煖め。彼人運と

ころろがなもろくた後楯あり。寂みの内室の長た病着よ叶ぬぬとけさ
 めふ。夫婦ひらろよ眠ぬあつてもあつて枕をみくやあつてさあつてさあつて
 ちとりの。武章の應もどど。火箸をとりく。爐中の灰を掻きど。ころよ
 十二分の怒気ありとどど。兄の面は靨く。そのまじをさるんて。蓮葉か
 又盃を舉ぐ。酒をさるく。と懐叔。ひらあつてのむよ。稱するやうんて。ころ
 が好意をとりく。勧め進らす。不血を。まよどもとりあつて。これ後さる
 あしど。近はよわりて。内室と酌あり。移りあつて。まどられど。ころころの一杯
 を受あつて。まよどもとりあつて。まどられど。ころころの一杯
 ころころを。ころころあつても。著れ。武章今。あつて。まよどもとりあつて。ころころの一杯
 只一打よ。打落ち。酒の爐中。ころころ。ばれ。灰の真白よ。飛散く。蓮葉が
 黒髪も。梢の雪の。ころころ。あつて。まよどもとりあつて。武章の眼を。瞬声を。ころころ。まよど

の原花女の媚を。猷く。と。買入を。誑く。ころ。俗眼。ころ。ころ。を。ころ。ころ。
 頻よ。艶言。と。ころ。挑く。ころ。ころ。ころ。ころ。大自物の行。ころ。ころ。の。ころ。ころ。
 倘再。ころ。ころ。ころ。ころ。の。舉動。を。ころ。ころ。ころ。ころ。願打。あつて。息の根
 と。む。む。と。罵。ころ。ころ。衝。と。ま。あつて。あつて。ころ。ころ。び。日。ころ。臥。客。房。よ。ころ。ころ。
 浩如よ。太。昂。武。泰。の。獲。の。息。を。ころ。ころ。肩。よ。ころ。ころ。犬。を。牽。ころ。ころ。を。駕。銀
 の。針。を。猷。ころ。ころ。ころ。ころ。の。管。簾。の。袖。拂。ひ。も。あつて。まよども。主。從。雪。を。踏。ころ。ころ。
 ころ。ころ。ま。る。よ。蓮。葉。の。これ。を見。まよども。まよども。迎。ころ。ころ。頻。よ。涙。ころ。ころ。ころ。ころ。
 ころ。ころ。と。咳。く。を。武。泰。の。打。ころ。ころ。ころ。ころ。の。養。脱。捨。ころ。ころ。ころ。ころ。
 洗。ころ。白斑。の。雁。鳥。を。通。ころ。ころ。ころ。ころ。の。下。介。これ。を受。ころ。ころ。犬。を。牽。ころ。ころ。
 の。ころ。あ。つ。て。武。泰。の。爐。の。辺。よ。ころ。ころ。居。ころ。ころ。龜。ころ。ころ。ころ。ころ。の。足。を。暖。め。
 ころ。ころ。の。蓮。葉。が。ころ。ころ。と。恨。ころ。ころ。ころ。ころ。の。氣。を。ころ。ころ。ころ。ころ。の。故。



雪の貝
けの
ちち
ちち
ちち

雪の貝 卷二

雪の貝 卷二

行のどろれりあり相構く。武章がゆびまゝを定めし出仕の奴隷。

あどよもあめあめらうよ内の守を固くと人の侮を防だぬらん。

わびく信らう告ぐ武泰うらぶ改められあふとば身が

諫を用ひく。翌うら山殺生すうぐ雪もをまめあめは今夜さ留る

ふりあるうらやうゆえんとあふ今夜の歌を丁介をおくやゆと

ゆの武章改を掉く。彼も又入の子ありうら終日うが兄の俱一ゆを

又煩さんいひあめは似たり。そや退るべうらうらう。縁うら出たけふ

草鞋の紐を結び暮の襟をうらありう。美を深くて出たり。武泰の

いと遺憾うればあうらうを目送さく。蓮あめ對ひうが弟ら雪

を厭まう。慌しくゆりうらうら故こそあめ前うら口が腹うら

びある。行ゆと。同もあめぬ。蓮あめ猛う声を並うくと泣て轉輾

あど武泰いすくと呆果ての行あは後そ後うらうのあうるくもあう。

丁介がうれんも面がうらうらとらう。蓮あめやや身を起て目を押

拭ひ武章畜生らのが行の邪うらう。閑て女の水性あるうらゆ。夫婦の言

もれうらうらうらうらう。今朝より狩よあめく。寒も下

いふあめいゆり来まさんたらう進らんととひて。壺の酒を温め

つる。彼放し飲盡し。酔し棄しうらう。調戯ゆりたあめうらう。

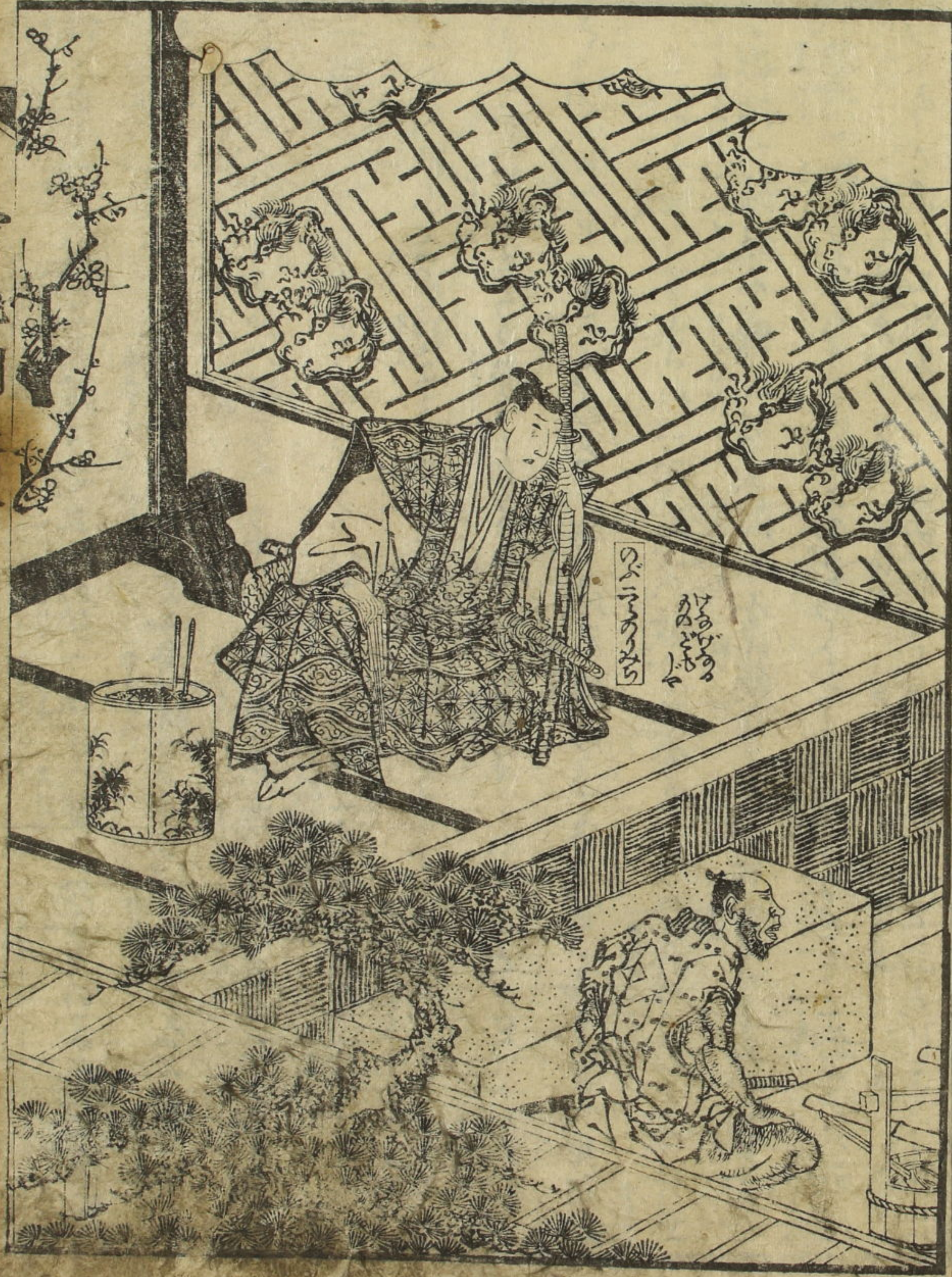
なう。ゆらうもあめは遣うねう。ゆい懲らう。ゆらうも。彼口が

立ゆりあめを見く。周章う。逃解も。あう。新護られ。妻のあ

あうらうとらうらう。慌しくゆりまう。彼あま妻のあをうらう。娘

は調戯く。獸まを行ひるゆ。口が牙あめあれと。あま。あは。今

降る雪と爐の縁うら。炭の如うらう。後うらう。あめ。春うらう。彼



月夜

おきん

お次吉

おきん

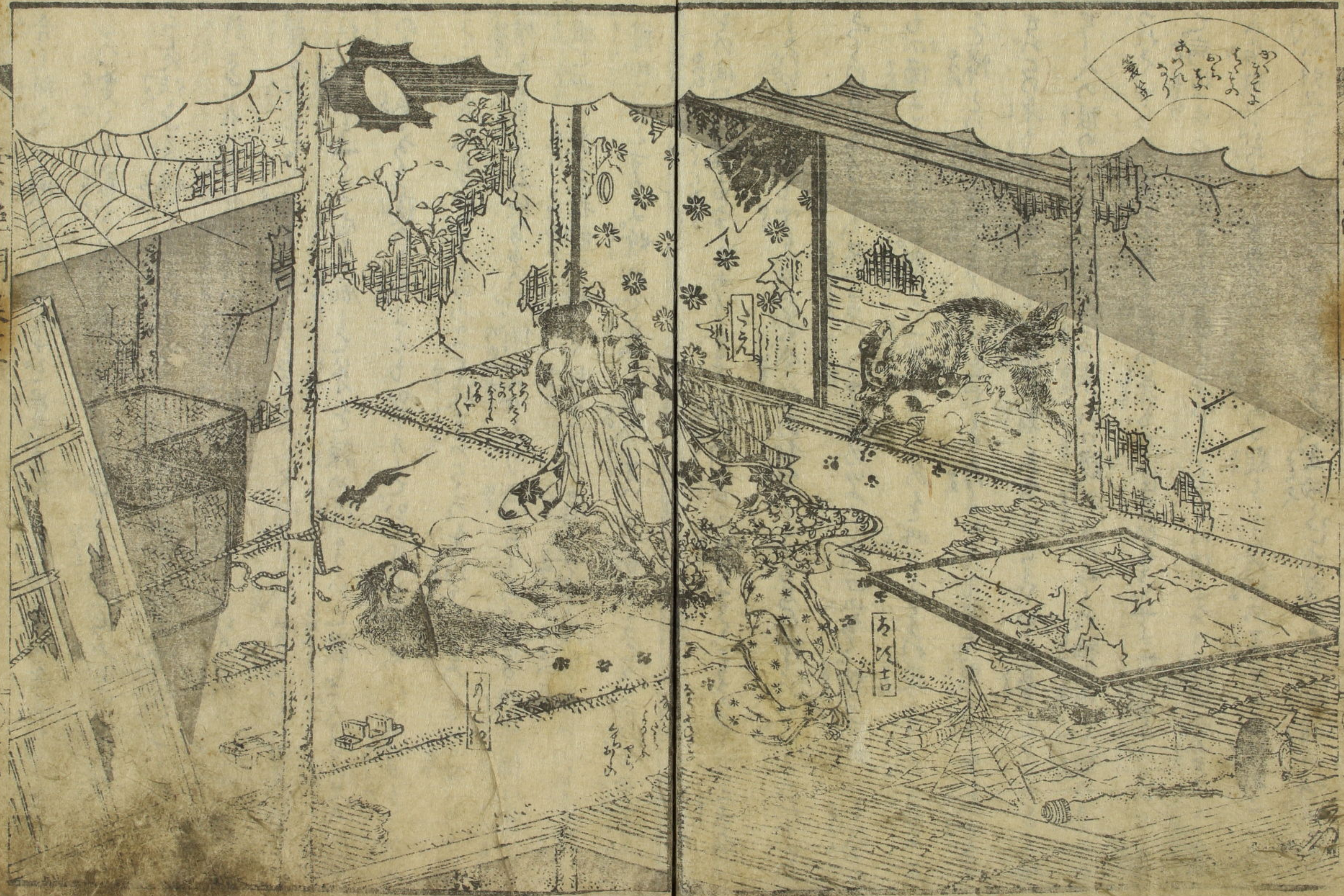
おきん
お次吉
おきん
お次吉

雲



おきん

おきん
お次吉
おきん
お次吉



あはれ
 けしき
 かなし
 げんご
 げんご
 げんご

あはれ
 けしき
 かなし
 げんご
 げんご
 げんご



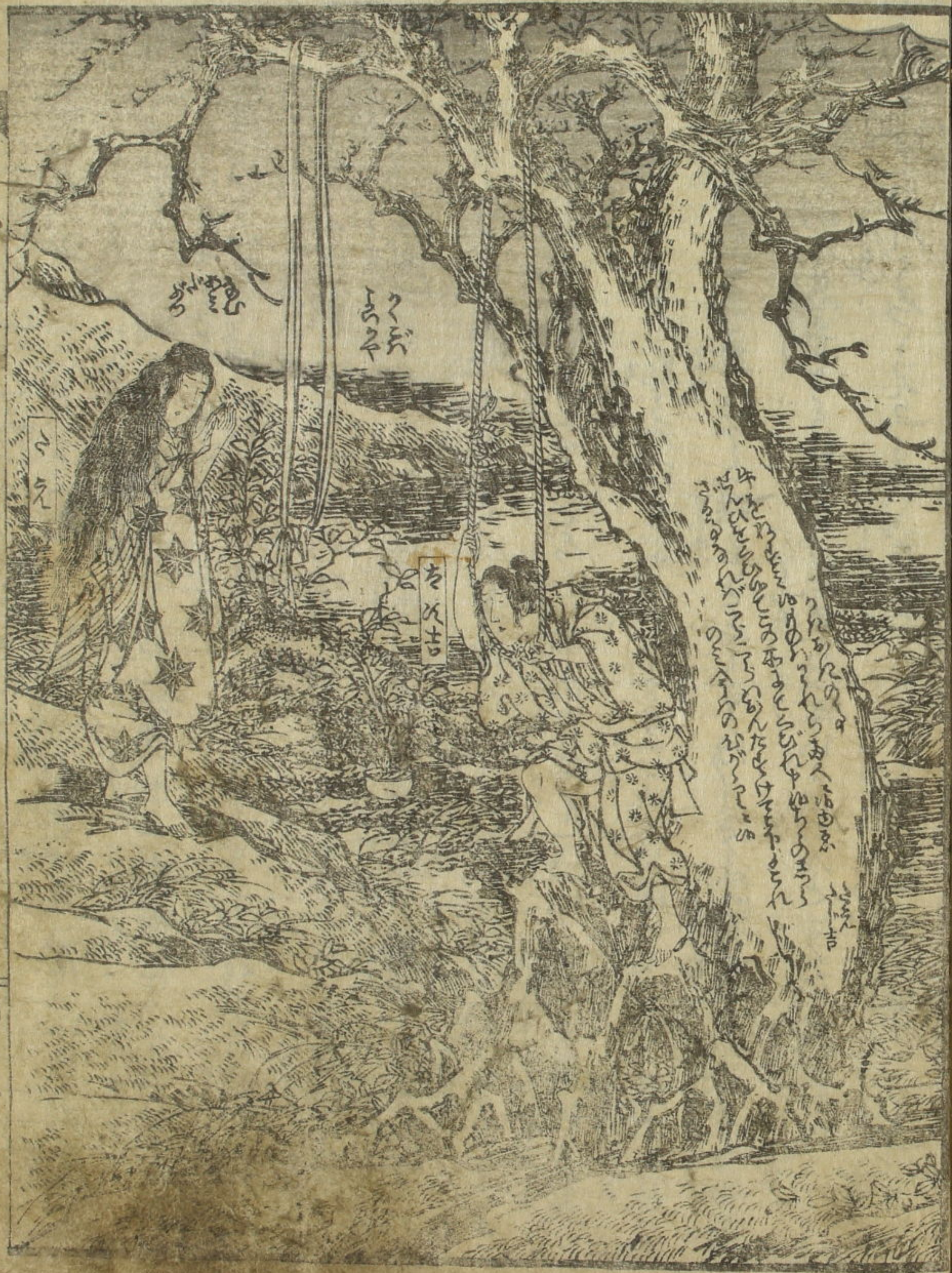
其角
 尾花
 之
 之
 之
 之
 之

其角
 尾花
 之
 之
 之
 之
 之

八元

たのま
 ちんちん
 ねん
 ちんちん

ちんちん
 ねん
 ちんちん



押拭ひつ。詮通は討ひ其れとれり。のどもが父とて。伊原ス郎。二高武章と
ひらき。のどもく。村落は零落す。親族東西は離散せ。兄武養といふ
の。相摸の木質光補は仕る。告来し。はらり。月彼如小鼓に
やう。来る。今朝も。とれり。人の伊原國へ。ゆく。ふ。あ。ま。ま。が。寛。柱。小。係。を
妻の元は。横匠。て。入。の。も。も。も。獄屋。に。繋。ぎ。と。作。り。た。れ。た。が。ど。う。も。是。ゆ。り。を
う。い。ど。も。今。と。も。も。妙。ち。の。吉。が。父。を。救。ん。だ。と。い。ふ。と。是。れ。小。末。り。を。不
覺。の。落。決。ま。り。も。出。さ。し。事。の。本。体。を。張。ひ。が。彼。亦。忽。地。の。死。小
赴。と。入。り。も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り
あ。ま。安。堵。す。も。外。あ。り。姓。名。と。も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り
小。堪。す。も。も。も。名。告。す。も。も。も。魚。末。彼。牛。い。と。り。ん。と。す。も。も。も。詮。通。咳。し。も
られ。と。せ。外。と。も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り

由緒ある武士も。今。當國の窮民ある。其許の形容を。え。れ。西。か。を
隣。の。廣。に。近。に。あ。ら。は。じ。姓。を。も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り
も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り
も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り
も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り
も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り
も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り
も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り
も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り
も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り
も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り

山吹の景色は。も。も。も。一。と。め。ん。と。す。と。た。よ。貴。辺。の。ら。り。中。彼。亦。と。め。り



大川
 乃由申の金
 ともて
 大川
 乃由申の金



雲
 終
 問
 三

